



特集

今こそ災害に備える

今年の元日、石川県能登地方を震源とする「令和6年能登半島地震」(以下、能登半島地震)が発生しました。石川県を中心に北陸全体が大きな被害に見舞われ、新年を迎えたばかりの日本列島に衝撃が走りました。発災から2カ月以上が経ちますが、未だ復興への道のりは険しいままです。今回の特集では、能登半島地震の被害から得られた教訓を基に、市民の皆さんに今こそしてほしい災害への備えを紹介します。

問い合わせ 危機管理課(☎35-0923)



1,2 発生から数日後の被災地の様子 3 被災地での給水活動の様子 4 募金を呼び掛ける六郷小児童 5 河城小の代表児童が原田副市長に募金を手渡す 6 1月末までに市役所に寄せられた募金

元日の列島を襲った地震

1月1日午後4時10分、石川県能登地方を震源とする地震が発生。最大震度7、地震の規模を示すマグニチュードが7.6を記録した巨大地震により、新年を迎えたばかりの日本列島に大きな衝撃が走りました。死者241人、重傷者320人、全壊家屋7,804棟、半壊家屋1万2,799棟(2月29日現在)と甚大な被害をもたらしました。

被災地への支援を継続

菊川市でも震度3を記録。幸いにも被害はありませんでしたが、広域のかつ大規模な地震である状況を踏まえ、市では元日から情報収集体制を立ち上げ、対応に当たりました。また、総務省消防庁長官からの派遣要請を受け、緊急消防援助隊静岡県大隊として、その日のうちに消防本部職員6名を被災地へ派遣しました。その後も、緊急消防援助隊の派遣を第7次(1月21日)まで継続したほか、水道の応急給水や避難所運営、家屋被害調査などのため、継続的に職員を現地に派遣し支援活動を行っています。また、被災した人を対象に

市営住宅(上本所団地)の貸し出しも行っています。

広がる支援の輪

市では、1月4日から市役所本庁舎などに被災地支援の募金箱を設置しました。市民の皆さんから、温かいお気持ちが届き、1月末時点での募金額は123万96円となりました。また、小学校や中学校で集めた募金を届けてくれた児童・生徒や、有志で募金活動を行った高校生や団体など、被災地を思う支援の輪が広がっています。

災害への備えを再確認

発災直後に被災地へ派遣された職員の報告では、道路の崩落や土砂崩れなどにより、移動するだけでも困難を極めたそうです。また、1月1日に発生したということで、人の移動が多く、安否確認の正確な情報を得られないことで救助活動への影響があったそうです。

能登半島地震を教訓に、支援物資が届くまでの間に必要なものを備える「自助」や、近所や地域の人同士の助け合いや、顔の見える関係づくりである「共助」など、改めて災害への備えを確認しましょう。